

【参考】前回県政経営会議における意見交換(令和5年3月20日)

○パーパス策定の意義

- ・ 昨今、気になるのは職員の、とりわけ若手職員の皆さんが仕事にやりがいを感じているか否かというところ。滋賀県職員として何を目標しているのか、我々の存在価値は何なのかを共有していくことが、パーパスの議論にも繋がっていく。
- ・ 憲法にも地方自治法にも地方公共団体の目的が書いているが、それを滋賀県なりに咀嚼して、県民に示す。
- ・ 我々全員が採用時に「サービスの宣誓」をしており、既に同じ共通認識の上に立っている。ただ固い文書であるし、言い方を工夫していくという考え方はあると思う。
- ・ 県庁の存在を職員の集合体と考えるのであれば、パーパスは職員の誇りやプライドにも繋がってくる。
- ・ 一体感の醸成、職員のよりどころ。
- ・ 我々の時代は、こういう目標に向かってみんなやっていこうねっていうのがあったが、今は、何をやって生きていけばいいのかっていうのがある。それを考えるのがこれからの世代の人たちなのではないか。改めて、若手の職員も自分たちが何に向かって、何を目標して、仕事をしていけばいいのか考えてもらうことが大切。

○パーパス案(イメージ)／これまで大事にしてきた思い

- ・ 色々な方の思いを受け止めて、少しでも何か寄り添った形にしていくということをずっと大事にしてきた。
- ・ 「社会を繋ぐ」というようなものが滋賀県庁のパーパスでは。
- ・ 防災危機管理体制の基本方針は、「災害や危機から人の生命身体および財産を守り、安全に暮らすことのできる地域社会を実現すること」。
- ・ 土木交通部でも組織の大目標として、「安全安心の確保と、地域の社会、経済活動の維持を支えていく」ということを共有しているからこそ、土木事務所も災害前には文句も言わず黙々と集まって、真摯に対応していただいていると思っている。
- ・ 最初にパッと思いつくのは「県民の皆さんの幸せ」だったが、「県民の皆さんだけでいいのか」となり、例えば、県外の方、日本全国の方、世界中の方、人類全体とかになると、なかなか的が絞れない、非常に難しい議論。
- ・ 普遍性のあるものに。また滋賀県らしさがあるといい。
- ・ わかりやすい言葉で、みんながなるほどなって言葉がいい。

○その他

- ・ 基本構想など色んなフレーズが乱立しており、わかりやすく整理して示すこと。
- ・ 職員が作り上げる過程が大事。